

Fusyo Collaboration letter

1月 23日 No.40 文責 廣田 秀俊



どうしたら上手に投げられるかな？

1年生の体育では「ボールの投げ方を身につけて附属小の大谷翔平になろう」を目標に、投げる運動に取り組みました。授業の初めには大谷翔平選手の写真が掲示され、子供たちは大きな期待を持って学習をスタートさせました。



先生が「どんなふうに投げればいいと思う？」と問いかけると、たくさんの子どもたちが反応し、「ねらったところにまっすぐ投げたい」「足を的に向けてまっすぐ出したい」「速いボールを投げたい」など、これまでの経験をもとにした意見が次々に発表されました。

その後、先生から投げ方のポイントとして三つの大切なことが伝えられました。投げる前のおへそは横を向いていること、足を的に向かってまっすぐ出すこと、そして投げる手と反対の手をねらっている方向に向けることです。子供たちはこれらを聞き、「ポイント3つをしっかりやる」「投げ方に気をつける」「おへそをしっかり向ける」など、今日の自分のめあてを一人一人が考えて活動に臨みました。



体育館の壁には小・中・大とさまざまな的が並び、子供たちは自分で選んだに向かってボールを投げていました。投げている友だちに声援を送ったり、投げ終えた友だちにアドバイスをしたり、うまくいったことを先生にうれしそうに報告したりする姿が見られ、学び合いながら取り組む様子が印象的でした。



途中のふり返りでは、「前よりうまく投げられた」「ボールをしっかり握るとうまいくいくことがわかった」「投げる手と反対の手を出せるようになった」などの成長を感じる声が聞かれました。一方で、「まだポイントが一つしかできていない」と自分の課題に気づく子もあり、その後は再びめあてを意識しながら、的に向かって投げる練習をくり返しました。



練習を重ねる中で、できるようになったことを先生や友だちにアピールする姿も多く見られました。最後に全員でふり返りを行うと、ポイント三つを意識すると上手に投げられることや、知らなかつたことを知ってできるようになったこと、まだ三つ全てを意識することが難しいなど、さまざまな気づきが共有されました。また、体が回ってしまうという新たな課題が出てきた子については、次の時間にもう一度挑戦していくことをみんなで確認し、次への意欲を持って授業を終えました。

